

重点目標		重点課題	令和7年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
1	①	より質の高い授業の実施	i	可動式電子黒板等のICT機器や生徒用タブレット端末を積極的かつ効果的に活用するとともに、生徒の発言や発表の機会を増やすこと等により、より主体的で対話的な授業を目指す。	・可動式電子黒板等のICT機器及び生徒用タブレット端末を活用した各教科の授業実施割合 70%以上 ・授業における可動式電子黒板等のICT機器及び生徒用タブレット端末の平均活用時間 30分以上	ICT活用状況調査の結果、授業におけるICT活用割合は95%で、一回の授業での電子黒板の平均活用時間は31.3分、生徒用タブレット端末は9.4分で、指標を満たしている。	A	B	教員研修等を開催し、ICT活用時数の増加だけでなく質の向上に繋げて生徒用タブレット端末の活用を推進する。
			ii	学期毎に授業参観週間を実施し相互参観する。さらに、授業改善研修を通して、全職員が教育課程の評価と改善を図る。また、全日制の授業や他校で行われている公開授業等にも参加し、授業改善や教科指導力の向上に努める。	・授業改善研修 年3回実施 ・相互授業参観 毎回2回以上	授業改善研修を年3回実施した。ほとんどの教員が相互授業参観を各回2回という目標を達成した。	A		①については、「一人一台端末」や授業の相互参観等の成果もあって、特にICT活用や参加型の授業展開において教員のスキルが向上したが、生徒用タブレットの活用方法の工夫が必要である。授業公開週間の相互参観については、全日制との相互参観ができなかった。生徒の実態に合わせた学習指導法の工夫・改善を図りながら、授業の質の向上に繋げる。
			iii	各学期末に生徒による授業評価を実施し、生徒の実態を的確に把握することで学習指導方法の工夫・改善につなげる。	・生徒による授業評価 年間2回実施 ・生徒の授業満足度80%以上 ・生徒の授業理解度70%以上 ・生徒の授業取組真剣度80%以上	生徒による授業評価を年間2回実施し、生徒の授業満足度は75%、生徒の授業理解度は58%であった。生徒の授業取組真剣度は75%であった。理解度が昨年度の100%に比べ大きく下がってしまった。	B		今後とも個々の実態に応じた学習を継続的に実施する。また、漢字検定の合格に向けたサポートを充実させる。
	②	漢字・計算等の基礎学力の向上	i	国語の授業で毎時間10分程度、個々のレベルに合わせた漢字課題に取り組む時間を設定するとともに、課題をふまえた校内漢字テストを年4回実施し、基礎学力の定着を図る。また、漢字検定を全員年1回受験させ、目標に向かって努力し、達成感を得る機会とする。	・漢字課題の提出率90%以上 ・漢字テスト 年間4回実施 ・漢字検定 年1回以上全員受験 ・漢字検定合格率 30%以上	漢字課題の提出率は90%で、個々のレベルに合わせた学習を継続的に実施できた。漢字テストを年4回実施し、生徒の取組真剣度は83%であった。漢字検定は1月に全員受験を実施し、合格率は64%であった。授業内の漢字学習に対する満足度は83%であった。	A	A	習熟度に応じた講座の内容を精選し、生徒の基礎学力の向上を図る。
			ii	生徒の習熟度に合わせて課題を設定し、計算力向上講座を年間4回実施する。課題の指導には教員全員であったり、講座と連動した計算テストを実施し、基礎学力の定着を図る。	・計算力向上講座 年間4回実施 ・生徒の講座に対する満足度75%以上 ・計算テスト 年間4回実施 ・生徒の取組真剣度80%以上 ・計算テストの年間平均点60点以上	講座を年間4回実施し、生徒の講座に対する満足度は92%であった。計算テストを年間4回実施し、生徒の取組真剣度は83%であった。計算テストの年間平均点は75.3点であった。	A		基礎事項の定着に課題が見られるため、小テストの活用と反復練習を通して、主体的な学習態度と基礎学力の向上を図る。
			iii	英語の授業で月1回10分程度、生徒の習熟度に合わせ、英語運用能力検定各級に準じた課題に取り組む時間を設定するとともに、課題と連動した英単語テストおよび英語能力検定模擬テストを年間3回実施し、基礎学力の定着を図る。	・英語課題の提出率90%以上 ・英単語テスト、英検模擬テスト 年間3回実施 ・生徒の取組真剣度80%以上 ・英単語テスト・英検模擬テストの年間平均点60点以上	課題提出率は100%であり、提出面での取り組みは良好であった。一方、英単語テストなどの小テストにおける取組の真剣度は75%にとどまり、英検模擬テストの平均点は45点と低い結果となった。	B		③については年間5冊以上の本を読んだ生徒の割合は8ポイント減少した。年間貸出し冊数は昨年に比べて7倍であった。今後も長期休業等に本を読みきっかけをつくり、啓発活動を実施する。
	③	本に親しむ態度の育成と読書習慣の確立	i	毎週月曜と木曜に15分間の読書の時間を設定し、集中して読書する時間を確保することで、読書に親しむ機会を設ける。また、長期休業を活用し、読書の習慣を身に付けさせる。	・年間5冊以上の本を読んだ生徒の割合20%以上 ・全日制図書館と定時制読書室の貸し出し冊数 年間5冊以上	読書の時間は確保したが、年間5冊以上の本を読んだ生徒の割合は15%であった。年間貸し出し冊数は、全日制図書館34冊、定時制読書室1冊の計35冊で、昨年度より増加した。	B	B	長期休業等を活用して読書の習慣を身に付けさせたり、読書室の図書を充実させたりする。
			ii	定時制読書室の蔵書充実を図るとともに、全日制図書館の利用や、授業での本の紹介・本を活用した指導により、生徒が本に触れる機会を設け、読書への興味関心を育む。	・授業やホームルーム活動での全日制図書館年間利用回数 年3回以上 ・授業での本の紹介や本を活用した指導 年5回以上	全日制図書館は年4回利用した。授業で本の紹介や本を活用した指導回数は年5回だった。	B		授業で図書館や本をさらに活用し、生徒が本に触れる機会を増やす。
	④	豊かな情操と人権感覚や道徳心の育成	i	・協力的・参加的・体験的な学習を取り入れた人権学習ホームルーム活動を実施し、それぞれの人権課題を自分事として捉えるとともに、自他の人権を守ろうとする意欲や態度、行動力を育てる。また、教員研修を充実させ、教員の人権意識の高揚と指導力の向上を図る。 ・「池定人権新聞」を発行し、保護者が本校の人権教育活動への理解を深められるよう努める。	・協力的・参加的・体験的な学習を取り入れた人権学習ホームルーム活動 年4回実施 ・外部講師による講演会 年1回実施 ・生徒アンケート「人権問題解決への意欲が高まった」肯定的回答割合 85%以上 ・人権教育に関する教員研修 年7回以上実施 ・「池定人権新聞」の発行 每学期1回	ICTを活用しながら、グループワークによる協力的・参加的学習を取り入れた人権学習ホームルーム活動を年5回実施した。「人権問題解決への意欲が高まった」と回答した生徒は83%であった。また、人権教育に関する教員研修を年7回実施した。「池定人権新聞」は每学期1回発行し、学習内容や生徒の様子を保護者に紹介できた。	B	A	来年度も引き続き実施し、早期発見に努める
			ii	生徒の些細な変化について注意深く観察し、全教員での情報の共有を徹底するとともに、学期毎に「高校生活アンケート」を実施し、いじめ等の問題行動の未然防止や早期対応につなげる。また、いじめに関するホームルーム等を実施し、いじめの起こらない学校作りに努める。	・いじめに関するアンケート調査 年3回実施 ・いじめに関する教職員研修 年1回以上実施 ・いじめ防止に関する生徒への啓発活動 年3回以上実施 ・いじめに関するHR活動 年1回以上実施	生徒の行動等を登校時の観察し、気になる点があった場合には教職員全体で共有し、問題行動等の未然防止に努めた。いじめに関するアンケートも年3回実施し、いじめ認知件数は0件であった。	A		継続して実施し、生徒理解や適切な支援に活かす。
			iii	道徳心（より良く生きるための態度や能力）の育成を全教育活動の中に位置づけ、自尊感情や道徳的・実践力の向上を目指す。また、内容を見直した上でアンケートを実施し、全教職員で情報を共有することで、生徒の状況把握や授業の改善に生かす。	・自尊感情に関するアンケート 年2回実施 ・道徳に関するアンケート 年2回実施	自尊感情に関するアンケート・道徳的行動アンケートを年2回実施した。結果を分析するとともに、全教職員で情報共有し、生徒の状況把握や支援に活かした。	A		授業や講演会を通して環境についての理解を深め、環境に配慮した行動がとれるよう指導を継続する。
			iv	ゴミの分別の徹底、電気や水道使用量の調査活動を通して、省エネや環境保全に対する意識を向上させる。	・徳島GXスクール認定校に係る内部評価による実態調査満点18点	水道・電気使用量の調査とゴミの分別をチェックした。生徒会を中心に感動を行い、節電・節水・ゴミの分別内部に対する意識が定着してきた。評価は18点であった。	A		

⑤	基本的生 活慣の確立	i	体調管理や時間を守ることを大切さについて説き、欠席や遅刻を減らすことを意識させる。	・体調管理・時間厳守に関する生徒への啓発活動 年5回以上実施	前年比 欠席者数114%増、遅刻者集46%増であった。	B	B	⑤については定期的に指導を繰り返しているものの、基本的生生活習慣の確立に対する意識は低い。今後も根気強く、粘り強く指導に努める。	(評議)最近、中学校でも基本的生生活習慣の乱れから遅刻をする生徒が増え、欠席につながっている。定時制でも同じようなことになっているのではと懸念する。	欠席・遅刻の多かった生徒に対し個別のアプローチを行い、全体に対しても根気強く指導を継続する
		ii	挨拶や言葉遣いについて繰り返し説明し、目上の人や社会に出たときのマナーを身につけさせる。	・挨拶・言葉遣い・マナーに関する生徒への啓発活動 年5回以上実施	外部講師によるビジネス講座や教職員による啓発活動を実施した。社会生活でのマナーについて理解が深まった。	B				
		iii	保健だよりや食育だよりの発行や「健康な生活確認シート」「生活リズムチェック表」を実施することで、自身の課題に気づき、生活習慣を見直し実行していくことのできる生徒を育成する。	・生活実態調査の実施 ・「健康な生活確認シート」「生活リズムチェック表」の実施 ・「保健だより」の発行 年11回 ・「食育だより」の発行 年3回	生活実態調査を6月に実施し、生徒の実態に応じた保健だよりを年11回発行、食育だよりを3回発行した。「生活リズムチェック表」では自身の生活習慣を振り返るよい機会となり「今後も健康を意識した生活をした」と回答した生徒は84.6%であった。	B				
		iv	薬物乱用防止教室を実施し、薬物の身体に及ぼす影響について正しい知識を生徒に提供することにより、薬物乱用の防止を図る。	・薬物乱用防止教室 年1回実施	5月に三好警察署から講師を招き、薬物乱用防止教室を実施。薬物乱用防止について理解が深まった。	B				
⑥	特別支援教育の推進と教育相談体制の充実	i	生徒の学びや成長をサポートし、安心して学校生活を送れるよう支援していくために、教員の知識の更新や校内連携体制を整える。	・教育相談週間 年3回実施 ・職員研修会 年1回実施 ・生徒アンケートで「先生はよく相談のしてくれる」肯定的回答割合 80%以上	スクールカウンセラーによる職員研修会は実施できなかった。教育相談週間を学期に1回設定し、年3回実施した。「先生はよく相談のしてくれる」と回答した生徒は100%であった。	B	B		生徒理解とチーム学校として連携を図るためにも職員研修を実施し教師としての役割を理解する必要がある。	
		ii	心の専門家であるスクールカウンセラーによる個人面談や講演会を開催し、困難やストレスへの対処方法などを学ぶことで心の健康の保持増進を図る。	・新入生を対象とした個人面談の実施 ・メンタルヘルス講演会 年1回実施 ・「教育相談だより」の発行 年10回程度	新入生対象の個人面談や講演会を実施した。また相談だよりは年6回発行した。スクールカウンセラーが生徒にとって身近な存在になっている。	B				スクールカウンセラーと連携し、心の健康の保持増進を図る。

令和7年度 徳島県立池田高等学校 定時制 学校評価総括表 2

「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価							学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	重点課題	令和7年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見		
2	① 進路意識や勤労観の育成	i	担任・進路指導主事による個別面接や保護者を交えての三者面談を実施、進路について具体的・主眼的に考え行動する姿勢を育てる。また保護者の要望意見も取り入れながら進路先を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談 年間5回以上 ・三者面談（就職・進学）夏期休業中に実施する ・卒業生の保護者に対するアンケートで、三者面談の満足度80%以上 	担任が定期的に個別面談を実施した。夏期休業中の三者面談においては、卒業予定者の面談に進路指導主事も同席する形で実施した。保護者アンケートでは、三者面談の満足度が100%であったが、生徒の就職試験に対する姿勢は受け身な部分が見られた。	A	B	生徒も保護者も納得した上で進路決定できるように、全職員で連携し、指導に当たる。	
		ii	定期的な進路希望調査とともに進路ガイダンスや進路に関するホームルーム活動を実施し、生徒の進路選択への意識を高めるとともに、ハローワーク担当、全日制の進路指導課とも連携を図りながら、計画的・組織的な進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスおよび進路に関するホームルーム活動年2回以上実施 ・卒業生のうち、進学希望者のオープンキャンパス参加率80%以上 ・就職希望者は個別の職場見学や職場体験に1社以上参加 	進路ガイダンスや外部講師を招聘した進路に関するHR活動は年に計2回実施した。個別の職場見学も適宜実施し、ハローワーク学卒担当者や全日制の進路担当とも連携を図りながら計画的・組織的な進路指導を行った。	A		①については、進路指導主事と担任が生徒・保護者の希望を聞きながら、個々の生徒の適正や能力を考えた支援してきた。今後一層の連携を図りたい。また、職場見学も実施し進路意識を醸成した。	生徒・保護者のニーズの把握に努め、個々の生徒の適性や能力を考慮した支援の充実を図る。
		iii	職場見学や就業体験を実施し、生徒に社会人・職業人としての立場を経験させ、働くことへの関心・意欲を高めるとともに、正しい職業観・勤労観を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学 年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「勤労意欲が高まった」肯定的回答割合 90%以上 	職場見学を年1回実施したが、生徒アンケートでは「将来の生き方・在り方について考えることができましたか」と回答した生徒は90%であった。	B		②については生徒に就労を奨励し、就労先との連携も図ることができた。アルバイト就労率については、目標を達成することはできなかったが、今後も勤労観の育成に繋がるよう指導していきたい。	生徒の実態に応じた職種や事業所の選定に努め、その他の講演会等も実施する。
	② 仕事と学業の両立	i	ハローワーク担当者や連携し、生徒に適切な就労先を斡旋して職業や社会体験を増やし、正しい勤労観を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・就労率85%以上 	就労率は75%であった。	B	B	各事業所の評価を向上させる。	
		ii	定時制高校生として、仕事と学業の両立が達成できるような指導を行う。また、定期的に生徒の就労先に連絡を取り、勤務状況等を的確に把握し、仕事と学業の両立が出来るように事業主とも連携を密にして適切な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学期1回程度、生徒のアルバイト先へ就労価値等の聞き取り 	学校からのアルバイト先への各種連絡文書等が届いているかどうかの確認や就業態度などを確認した。	B		生徒の勤務先からは今後も高評価をいただけるように、生徒への指導や激励を続けていく。	
		iii	全ての教育活動を通して、社会的自立に必要なコミュニケーション能力や社会人としてのマナーの育成に努める。外部講師によるビジネスマナー講習会も実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナー講習会 2回実施 ・ハローワーク学卒担当者招聘 ホームルーム活動1回実施 ・上記の活動における生徒の肯定的意見90%以上 	全職員によるマナー指導の徹底と共に、外部講師によるビジネスマナー研修会を年2回実施した。進路担当教員によるキャリア教育HR活動も年1回実施した。	B		③についてはキャリア教育と共に、基礎学力の向上や協働的な学びなど様々な視点から社会人に求められる能力や態度の育成を図った。	生徒の実態に応じた就労指導に努め、就労が定着するようハローワーク学卒担当と密に連携する。
	③ 社会人として求められる能力や態度の育成	i	学校設定教科リプラスにおいて、社会生活に必要な資質・能力についての知識及び技能を身につけることができるようにするとともに、既習事項の知識や技能を進んで活用し、生涯にわたって学び自己を向上させようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・リプラスベーシック1、2学期考查平均点を60点以上 ・リプラススタンダード1、2学期考查平均点70点以上 	リプラスベーシックの考查平均は42.4点、リプラススタンダードの考查平均は79.0点であった。	B	B	生徒の実態に応じた指導内容を見直し、社会生活に必要な資質・能力についての知識及び技能を身につけることができるようにする。	
		ii	総合的な探究の時間やホームルーム活動等では全学年合同の協働的な学習や体験的な活動を積極的に取り入れ、ICTを活用しながらチームとして問題や課題を解決する能力と態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・協働的・体験的な学習及び活動実施回数 各学期2回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「総合的な学習の時間は充実している」肯定的回答割合 80%以上 	協働的な学習及び活動を各学期で平均3回実施した。生徒アンケートで「総合的な探究の時間は充実している」肯定的回答割合が75%であった。	B		生徒の実態に応じた就労指導に努め、就労が定着するようハローワーク学卒担当と密に連携する。	
		iii	ハローワーク等関係機関と連携を密にする。特に県内企業の求人が少ないため、積極的に企業訪問したり、商工会議所に向かいたりして、求人の開拓に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の要望に応じて、ハローワーク、企業その他の関係機関への訪問を随時行い、連携を密にする。 ・保護者アンケート「学校は、就労について支援をしてくれている」肯定的回答割合 80%以上 	ハローワーク、企業その他の関係機関への訪問を随時行い、連携を密に図った。保護者アンケートでは、就労支援の満足度が83%だった。	A		生徒の実態に応じた就労支援の充実に向けて、地域の事業所との関係を深める。	
	④ 進路希望の実現	i	進学を希望する生徒に対して、全日制の進路指導課と連携しながら早期に情報を収集し、指導体制を整え対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進学情報を早期に収集し、生徒個々に必要な支援を行う。 	就職・進学の情報提供や入試対策課題、面接指導など、生徒個々に必要な指導・支援を行った。	A	A	今後も継続して必要な指導・支援を行う。	
		ii	就職試験や大学入試における面接や小論文の対策は担任を中心として全教員が指導にあたり、生徒個々の状況に答える。	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制進路課と進学情報を共有し、全教員が指導にあたる。 ・進路課による面接指導 5回以上実施 	全日制進路課と連携しながら、職員全体で生徒の進路に応じた試験対策や面接指導を適宜行った。	A		早期に情報を提供し進路決定に繋げる。	
		iii							

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策						
重点目標	重点課題	令和7年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況		評価	総合評価	学校関係者の意見			
3	① 本校教育活動の公開と普及	i	学燈祭や授業等を公開するとともに、地域における美術作品展及び学習展を開催し、地域社会からの本校教育活動に対する理解を深める。	・学燈祭及び本校学習展の来場者合計 150人以上 ・生徒対象学校評価アンケート「学燈祭が充実している」肯定的回答割合 90%以上	学燈祭及び本学習展における把握できた来場者の合計は121人であり、評価指標を達成できなかった。生徒アンケートの「学燈祭」満足度は92%だった。	B	A	A	美術作品の展示方法や広報活動、学燈祭の内容の更なる改善を図る。		
		ii	ホームページの更新を積極的に行い、最新の情報提供と内容のさらなる拡充に努める。また、学校紹介用の資料やスライド等を作成し、保護者や学校関係者への情報発信に繋げる。	・学校紹介用スライドの作成 年1回以上 ・ホームページの更新 月平均3回以上	学校紹介用スライドを年1回以上作成し、学校説明会等で公開した。ホームページの更新をタイムリーに月平均5回程度更新した。適宜確認しながら生徒の個人情報の保護に努めた。	A				①については、まなべ屋・とことん・フレスポ・県立三好病院等において作品展を開催し、活動を多くの人に知ってもらえた。ホームページも素早く、数多く情報を提供することができた。来年度はより見やすく生徒の様子がより一層伝わるように工夫する。	本校での取組が伝わるようスライドの内容や表現方法を工夫する。ホームページにおいても、最新の情報を提供できるよう、更新を積極的に行う。
		iii	校誌『学燈』や「池定通信」を発行・配布し、本校の活動状況を保護者や関係機関に情報提供することにより、本校教育活動への関心を高め、理解を深める。	・『学燈』の発行 年1回 ・「池定通信」の発行 毎学期1回 ・保護者や関係機関への配布 年1回以上	「池定通信」年3回、「学燈」年1回発行し、地域での様々な教育活動や学校での生徒の取り組みを発信できた。また、定時制振興会員への配布も行った。	A				生徒の様子や学校行事などがよりわかりやすく伝えられるように工夫する。	
	② 地域の人材・組織等との連携	i	美術作品制作の際に、地域の専門家を外部講師として招聘し、地域の教育力の活用を図る。	・地域の外部講師招聘 2名以上 ・徳島県高等学校定時制通信制教育連盟連美術作品展入賞 7作品以上	地域の芸術家を2名、外部講師として招聘し、美術作品の制作に取り組み、定通連美術作品展で全5部門全てに入賞し、特選2点・準特選4点だった。	B	A	A	②については、地域の人と連携しながら、美化活動・防犯パトロール・防犯啓発活動等の活動を実施できた。また、活動の満足度、意欲度が前年より上昇している。今後も継続し、一層生徒の実態に即した効果のあるものに工夫する。	指導の充実に向け講師との事前の打ち合わせを入念に行う。	
		ii	地域社会に関する課題を設定し、専門家を外部講師として招聘して特別講義を実施し、郷土の伝統や文化、自然風土等に対する理解を深め、郷土愛を育てる。	・大学その他関係機関の外部講師招聘 2以上 ・生徒対象学校評価アンケート「地域を知る学習に積極的に参加できた」肯定的回答割合 80%以上	市役所その他関係機関の外部講師を計6名招聘し、地域に関する学習を実施した。生徒アンケートの「地域を知る学習」満足度は83%だった。	A				対面講座、遠隔講座に関わらず、講座内容が充実するよう講師と打ち合わせを入念に行う。	
		iii	地域の警察と連携した合同パトロールを実施し、交通安全や特殊詐欺防止等の啓発に努める。	・夜間防犯パトロール活動 年3回以上 ・交通安全や特殊詐欺防止等の啓発活動 年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「防犯パトロールに積極的に参加できた」肯定的回答割合 90%以上	地域の自治会や社会福祉協議会と連携して地域防災支援を年1回実施し、生徒アンケートでうちわづくりへの意欲度は100%だった。	A				広く様々な地域の支援に繋がるよう取組の工夫・改善を図る。	
	③ 地域との関わりや結びつきを深める活動	i	地域に関するテーマを学年共通で設定し、課題研究を実施して研究発表会を開催するとともに、その成果を展示する。	・学習研究発表会 年1回以上 ・学習研究の成果の展示 年2回以上	今年度はグループ別に個々の研究テーマを設定して探究活動を行い、学習研究発表会を年1回実施し、成果の展示も年2回実施した。	A	B	A	③については探究活動のテーマに即した特別講義を行った後、3つのグループに分かれてそれぞれの分野で調査・研究を行い発表会を実施した。各グループ毎に、発表方法やスキルの向上が感じられた。他にも、地域のゴミ拾いや防犯パトロールなどを実施し、地域に貢献活動にも尽力した。今後もこれらの活動を通して社会人として必要な資質の向上に努める。	学習成果の展示方法や広報活動、展示場所、発表方法等の工夫・改善を図る。	
		ii	「池定・地域まもり隊」の活動のさらなる活性化を図り、地域社会の安全等、住みよい町づくりに貢献するとともに、被災地等への支援や交流活動を行い、ボランティア精神の育成に繋げる。	・被災地等への支援・交流活動及び地域防災支援 年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「被災地支援活動に積極的に参加できた」肯定的回答割合 90%以上	夜間防犯パトロールを年3回、交通安全や特殊詐欺防止等の啓発活動を年2回実施し、生徒アンケートで防犯パトロールの活動意欲度が83%だった。	B				(評議)池定地域まもり隊の活動は、自尊心を高めるのに効果的である。	交通安全や特殊詐欺防止等の啓発活動方法の工夫や、巡回コースを工夫し防犯の推進に繋げる。
		iii	地域社会における清掃活動やリサイクル支援活動等を実施し、生徒の環境に対する意識や関心を高め、地域の環境美化及び環境保全に貢献するとともに、地域社会の一員としての自覚と態度を育てる。	・地域の美化活動 年間3回以上実施 ・廃食用油リサイクル支援活動 年間1回以上実施 ・生徒対象学校評価アンケート「地域の清掃活動に積極的に参加できた」肯定的回答割合 85%以上	地域のゴミ拾い等の美化活動を年3回、廃食用油リサイクル支援活動も年1回実施し、生徒アンケートで地域の清掃活動への意欲度も83%だった。	B				ゴミ拾いや廃油回収だけでなくゴミの削減に繋がるように活動の工夫・改善を図る。	
		iv	主権者教育に関する講演会や学習活動等をICTも活用しながら実施し、生徒に主権者としての政治的教養を身に付けさせるとともに、他者と連携・協働しながら社会参画しようとする意欲と態度を育てる。	・主権者教育に関する学習及び講演会 年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「選挙や政治について関心が高まった」肯定的回答割合 90%以上	大学と連携した授業を含め、主権者教育に関する学習活動を年1回実施し、生徒アンケートで選挙や政治への関心度は85%だった。	B				④については夜間の避難訓練を実施した。「池定・地域まもり隊」として、地域防災に対する活動を継続的に実施しており、その成果が認められ、令和7年度も「徳島県まなぼうさい賞」の活動賞を受賞した。	成人年齢の引き下げに対応できるように指導の工夫・改善を図る。
	④ 防災教育と救急処置体制の確立	i	全国瞬時警報システム（Jアラート）を活用した夜間避難訓練を実施し、生徒に災害発生時の行動様式を身に付けさせるとともに、防災・減災に関する知識や助け合いの精神を育てる。	全国瞬時警報システム（Jアラート）を活用した夜間避難訓練を実施し、生徒に災害発生時の行動様式を身に付けさせるとともに、防災・減災に関する知識や助け合いの精神を育てる。	5月に夜間避難訓練を実施した。防災学習HRも3回実施し、防災意識の高まりが見られた。	B	A	A	次年度も引き続き訓練を実施し、啓発活動を進める。		
		ii	全生徒・全教員に対し地元の消防署員による「AEDを含む救急処置実技講習会」を実施するとともに、事故災害発生時の対応について教員間で共通理解を図る。	・AEDを含む救急処置実技講習会 年1回実施 ・AEDを含む救急処置ができる教員 90%以上	5月に池田消防署員によるAED・救命処置実技講習を実施した。AED使用や心臓マッサージの実技訓練を全生徒・教職員が行い、成果が得られた。	A				次年度も引き続き実技講習を実施し、啓発活動を進める。	
iii		防災に関する学習及び活動をICTも活用しながら実施し、自他の命を大切にするとともに、災害時に適切な意思決定や行動選択ができる生徒を育成する。	・防災教育に関する学習及び活動 年1回以上 ・防災・減災の啓発活動 年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「防災に関する理解が深まった」肯定的回答割合 90%以上	防災教育に関する学習を年3回実施し、生徒アンケートで防災への理解度も100%だった。災害用担架も購入し充実を図った。	A	防災・減災への意識を定着させるための指導の工夫・改善を図る。					